Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報 Web 版

発行日：2009.11
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.44

CONTENTS

- 銀塩写真の魅力･･･ゾーンシステムを巡って（1）
- 中島秀雄写真展レポート
- 静物撮影会スナップ
- ストロボによる静物撮影テクニック
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

銀塩写真の魅力
ゾーンシステムを巡って（1）

中島秀雄

写真は科学と化学、そして、アートがつながったもので、テクノロジーの進歩と共にその表現領域を広げてきた。従来の写真は、撮影のためのフィルムにしてもプリントにしても銀の化学変化によって画像形成するもので、暗室作業という独特のプロセスゆえに感や経験と多少の忍耐と時間を必要とした。昨今、デジタル技術の飛躍は、写真の世界に大きな変革をもたらした。フィルムに代わる記憶素子とパソコン・プリンターによる処理に切り代わり、速写性や通信機能という面から見ればこれほどすぐれたものはない。

しかし、従来の銀塩写真に魅力が失われてしまったといえるかというとそんなことはまったくないと思っている。

学生時代、私は、プリンターに選ばれた。文化祭のための学年クラス作品提出のために全員のネガを集め、私がまとめてプリントすることになった。ところが、このときに集めたクラス仲間 25 人ほどのネガは、その濃度、ネガサイズはバラバラで、そのバラバラなネガからのプリント制作にはほとほと苦労したことを記憶している。

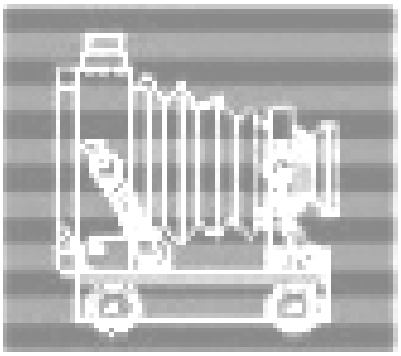
銀塩写真の大きな特徴は、言うまでもなくまずこのネガにあるといえる。そして、ネガ作りこそ銀塩写真の魅力の一つであり、強さであると思っている。

アメリカの有名な写真家アンセル・アダムスは、当初、ピアニストを目指していたが、15 歳のときに独学で写真を習得し写真にも深く関っていた。その後、アダムスは 23 歳のときにコンサート・ピアニストになる決意を家族の前で語り、メイソン&ファミリンのグランドピアノを買ってもらう。

しかし、ニューメキシコ州タオスへ撮影旅行に行ったとき、当時有名だった写真家ポール・ストランドに会い、彼のネガを見せてもらいその美しさに感動して写真家に転向してしまった。アダムスは、すでにすばらしい作品を創っていたが、やはりネガ作りには苦労していて、すばらしい銀塩プリントを創るための理想的なネガがあるはずだとたえず考えていたのだろう。

たった一枚のネガが、１人の人間の人生を変えてしまったのだ。

注）上記記事は、2009 年 6 月 9 日～6 月 27 日開催の「銀塩写真の魅力」展（ギャラリーときの忘れ物）開催時の小冊子／ブログ用に書かれた文からの引用です。



中島秀雄写真展レポート

荒井崇

2009 年 5 月 8 日（金）～24 日（日）中島代表の写真展が行われた。

今回の写真展は、「ヒットオン」主催の「ゾーンシステムワークショップ」(2009 年 5 月 9 日～7 月 19 日)（会報 NO.42 参照）と平行して企画されたもので、「ヒットオン」に併設されているスペース「アートスペースモーター」で開催された。

中島代表の作品としては、大半が過去の作品であるが、一部新作も出品されていた。
特に実験棟の光、エアーストリームなどは、非常に完成度の高い作品であった。いずれも中島代表自宅近郊で撮影されたそうで、私たちも、改めて身近なものに視点を向けてみるのも良いかもしれない。

また、過去の作品においても一部未公開作品があり、大変興味深いものがあった。
研究会撮影会での過去作品も数点見られ、懐かしく感じた会員もいたのではないでしょうか。

会場の雰囲気は極めてすっきりしており、細長いス小さなペースにもかかわらず、比較的ゆったりと作品を展示することができる。

内装もきれいで、個展を行うには非常に適した

スペースと言える。

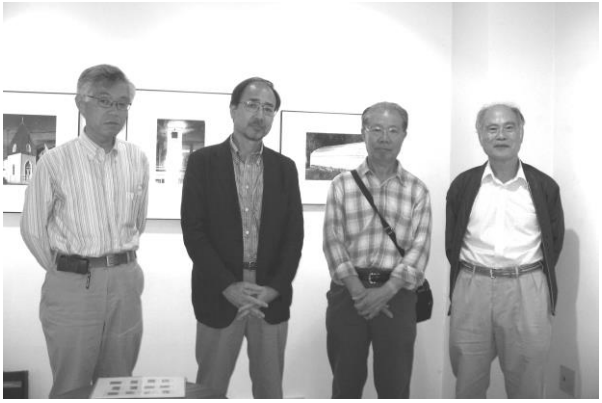
ただ、都心から近いとはいえ八丁堀という場所柄、他にギャラリーが無いので、何か他の展示のついでに訪れるという客が少ないというデメリットもある。

しかしながら、この立地条件にもかかわらず、わずか２週間の展示期間に６点もの作品が売れたという。

中島代表による作品の評価が少しづつ高まっているということではないだろうか。

今回は、参加者に作品を見せながらワークショップを進めることができ、非常に有意義な作品展となったようである。

これにより、新たな研究会の仲間が増えることを熱望したい。

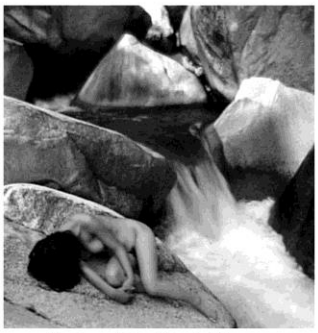


中島秀雄写真展［光へのまなざし］全作品(1/2)

巨石，日光

引き潮，荒崎

エンジェル・アイス，山梨

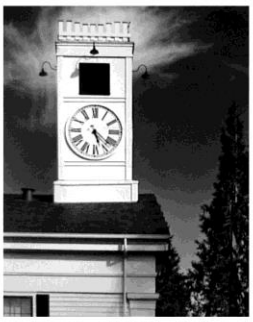


リバー・ヌード，山梨

コンポジション，横浜，1999

リーブス，北海道

シエラの残雪，Calif.



コート・ハウス，Calif.

ブーニー雑貨店，ボーディ，Calif.

ルーフ，ボーディ，Calif.

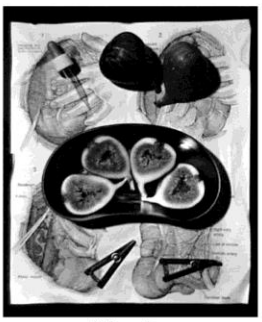
ドアと椅子，Calif，2006

マシーン，ボーディ，Calif.

Copyright: Hideo Nakajim

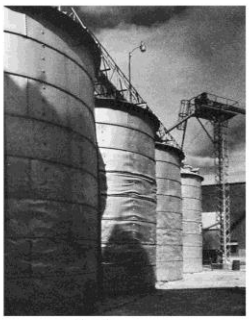
中島秀雄写真展［光へのまなざし］全作品(2/2)

ボタニカル
オペレーション



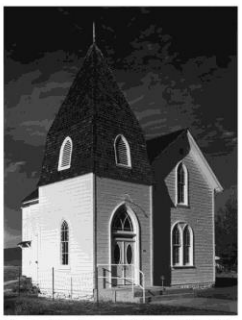
ボタニカル
インターナル・オーガンス

旅行鞄の寓話



サイロ，Calif

漂流物，輪島



コミュニティー・チャーチ，Calif

マセード・リバー，ヨセミテ，Calif

実験棟の光，百合丘

メソディスト・チャーチ，ボーディ，Calif.

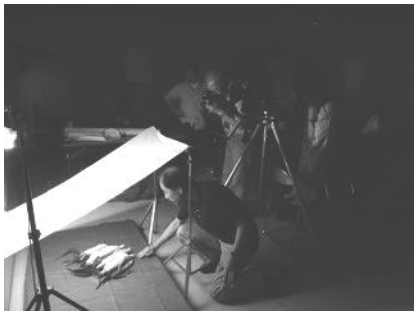
エアーストリーム，玉川学園

中島代表
（アートスペースモーターにて）

Copyright: Hideo Nakajim

静物撮影会スナップ

・日時：2009 年 8 月 15 日（土）
・場所：横浜市市民活動支援センター会議室
・参加者：中島代表、北野、浜野、岸、鈴木（武志）、酒巻
・今回は、魚、氷、植物等、周到な準備をして開催。
その甲斐あって、撮影された作品は、近年稀に見る大変すばらしいものとなりました。
（準備に奔走してくれた中島代表、北野さん、松本さん、ありがとうございました。）



ストロボ光での静物撮影

小菅秀一

今、静物写真を取り組んでおります。ストロボを使用した撮影を考えていきたいと思い改めて自分の撮影内容のレポートをまとめてみました。

①ストロボ光と定常光の違い

ストロボ光の場合、撮影の露出決定は、シャッタースピードは関係なく、ストロボ光が一瞬光るだけの高速スピードで通るため、絞りの要素だけで露出が決定されます。

測光は、被写体の各部分の明暗が絞り値で示され、ゾーンスケールに沿った適正なキーを見つけ出し露出を決定します。

②ストロボ撮影での画像について

ストロボ撮影では、厳密には事前に被写体の状態を確認することが困難です。

ストロボに備わっているモデリングライトを使った状態で光の状態をチェックした後、デジカメで画像を確認します。それから被写体、ライティング等の修正を行います。今度はストロボを使用した撮影を行い、デジタル画像として保存します。最後にフィルムでの本番撮影に入ります。

＊デジタルカメラは「シンクロ接点」を備えていることが必須です。レンズもＦ32 まであると便利です。

③ストロボ測光の実際

ストロボ測光は、スポットメーター（フラッシュ測光機能付き）での「シンクロ端子」にストロボのシンクロコードを接続して測光します。測光時にストロボは発光し、メーターの絞り値が示されます。

測光方法はすべて定常光と同じ要領です。

写真①
ミノルタスポットメーターF
*露出値　絞り 45.6 を表示
*シンクロコードは本体下部に接続されております。
***詳細は写真③を参照**

写真②
撮影台とライティングセット
*ストロボ　2400W　1灯
（コメット社製　CB2400）
デフューザー　アートレ
レフ板　白（0.6×1.0m）
*バック
背景紙　黒　（1.36×11m）

④「ゾーンスケール表」の利用

この方法で各被写体を測光し、下記の「ゾーンスケール表」に従って各ゾーンを決定します。

表①
自作ゾーンスケール
＊表の絞り値に従いゾーンを決定します。

＊TMX100（80 で撮影）の場合

ZONE	絞り								
	a	b	c	d	e	f	g	h	i
Ⅱ	1.0	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
Ⅲ	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
Ⅳ	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32
Ⅴ	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	45
Ⅵ	4	5.6	8	11	16	22	32	45	64
Ⅶ	5.6	8	11	16	22	32	45	64	90
Ⅷ	8	11	16	22	32	45	64	90	128
Ⅸ	11	16	22	32	45	64	90	128	―

＊室内でのストロボ撮影の場合、シャッターは 1/30 もしくは 1/60 秒に固定。

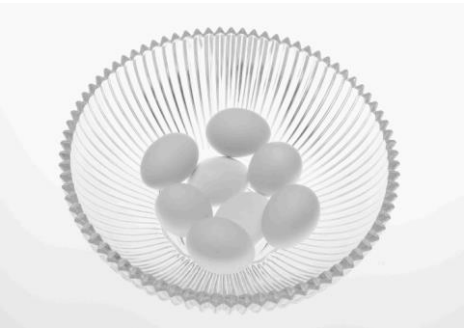
⑥ストロボ撮影のメリットについて

(1) 早いシャッタースピートが選べること。
（被写体ブレがない。）
(2) 熱量が少ないこと。
（被写体に熱が伝わらない。）
(3) 光のコントロール（出力量、光質の調整等）と多灯ライティングが可能。

⑤ストロボ撮影のデータ例

写真③

作例データ　　レンズ　210 ㎜
絞り　F 22 1/2　speed 1/30
①梨　明部　　F 45.6　zoneⅦ
②背景紙　　F 11.7　zoneⅢ
③皿　明部　　F 64.5　zoneⅧ
④梨　暗部　　F 16　zoneⅢ



写真④

作例データ　　レンズ　210 ㎜
絞り　F 22 1/2　　speed 1/30
①卵　明部　　zoneⅦ
②卵　暗部　　zoneⅥ
③背景　　zoneⅧ
④ボウル　　zoneⅥ～Ⅷ

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2009年 8 月 8 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、石井、古谷津、松本、橘田、岸、北野、畑、荒井、倉又、長谷川、越後、浜野、鈴木武、佐久間、小菅、圓子

・見学：葛城

・作品持参者：石井、古谷津、橘田、岸、長谷川、越後、浜野、小菅、圓子

●研究会写真展の準備について

広報用写真は富士フォトサロンに提出済み。その他プレスへの送付済み。

●室内撮影会について

・都合により８月１５日に延期。

・アイデアスケッチを描き、自分のイメージを準備しておくこと。

・撮影会に参加できなくても、各自で撮影を試みること。

●写真展情報

・「世界をめぐる吉田家４代の画家たち」［三鷹市美術ギャラリー］：芸術家一族吉田家ゆかりの作品展示。

吉田家とは、ヨセミテツアーでお世話になった吉田隆志氏の家族。

・「吉田町写真展」［吉田町画廊（関内）］：研究会会員（荒井）、土居慶司（ファインプリント作家）等のグループ展

2009年 9 月 12 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、松本、北野、荒井、長谷川、浜野、圓子、岡崎、藤田、古谷津、小菅、越後、畑

・作品持参者：松本、北野、荒井、長谷川、浜野、圓子、岡崎、藤田

●暗室ワークで気づいたこと

・良いネガを作る技術の向上が必要。ピントやブレ、ネガ濃度などが不適切な例が見られる。

・時々技術書を読み返すのもよい。例えばアダムスの「カメラ」には、「大判用レンズの絞りはｆ値が大きくなると目盛の精度が悪くなる」という記述がある。

●静物撮影会の反省

・自分のイメージを形にしようとすると、いろいろな問題を解決しなければならない。それが勉強になる。気づいたモノ、気になるモノに積極的にカメラを向けよう。

●「東京フォト２００９」(9/4～6 六本木で開催)

・日本初の写真専門アートフェア。国内外のギャラリーが、写真作品の展示と販売を行った。盛況であったが、実際に売れている写真は多くはないだろう。

・今まで写真を扱っていない画廊が写真に興味を持ち始めているようだ。現代アートとしての写真は巨大なプリントが目立った。

・アーティスト、観客などに若い女性が多い。

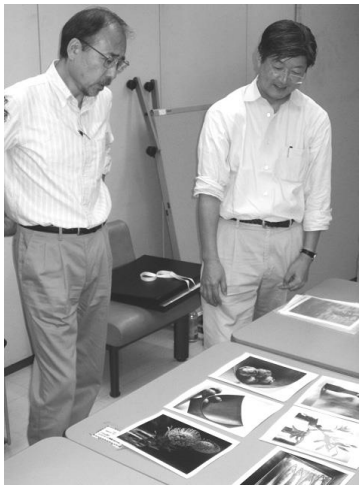
・日本の写真をめぐる環境は２０年前と変わっていないが、最近は海外で日本の写真が注目されている。

●写真展案内が日本カメラ 11 月号に掲載される。（クラブ紹介記事）

●ポートフォリオ参加希望者足りない。まだ希望して無い方、ぜひ参加して欲しい。

●写真展の準備について

・作品は 10/10 の例会迄に完成すること。中島代表の OK を取ることが絶対条件となる。



（万一 10 月例会に参加出来ない方は、代表と連絡を取り、個別に審査を受けること。）

・額装作業は、10/17（土）９：００～

昨年同様、反町の田中英司さんの工房をお借りする。出展者は作品並びに額を持参して額装作業に参加のこと。

（参加出来ない方は、10/15 必着で作品並びにフレームを中島代表宛に送る。）

・フレーム/アクリルを新たに購入予定の方は、大至急荒井さん宛申し込むこと。使用予定のアクリルに傷がある場合は、新たにアクリル板を購入すること。

・写真展で配布するデータシートを作成する。10/10 迄に指定フォームを利用して各自作成し、古谷津純一さん宛提出すること。

・11/7（土）19:00～会場近くでオープニングパーティーを行う。（会費制（4000 円））
出展者は出席下さるよう、ご予定下さい。

・昨年迄行っていた個人パネルは作成しない。

・出展者は、事前に一人 1 万円をお預かりする。10 月例会迄に写真展会計担当の酒巻さんにお納めること。（後日実費精算）

（10 月例会に出席出来ない場合は、研究会の口座に振り込むこと。）

・額は全て縦で展示。（展示スペースが狭いため。）横位置作品は、額を縦にして横位置に配置

Information

【トピックス】

[暗室ワーク]

研究会恒例の暗室ワークが行われた。

・日時：2009 年 8 月 30 日（土）

・場所：工芸大中野キャンパス暗室

・参加者：中島代表、松本、浜野、鈴木（武志）、酒巻、北野、葛城

プリント技術以前に、いかに良いネガを作るかが最大のポイントであることを改めて実感した方が多かったようである。大変有意義なワークショップであった。

[「銀塩写真の魅力」展鑑賞会]

2009 年 6 月 13 日（土）例会後、外苑前のギャラリー「ときの忘れもの」に移動、「銀塩写真の魅力～Gelatin Silver YES!」の鑑賞会が行われた。

今回は、アンセル・アダムス、エドワード・ウェストン等海外の著名作家と共に、中島代表の作品も展示された。

アレン・ダットンなど、中島代表と親交のあった写真家も含まれており、作品制作のプロセス等中島代表に解説していただいた。

世の中がデジタル写真に移行していく時代にあって、改めて銀塩写真のすばらしさを実感した次第である。